2 章　分野別実態把握

1．実態把握に用いる情報

分野別実態把握では、施設の分類ごとに現状を整理し、整理したデータにもとづき、特徴や課題を把握します。具体的には、施設や事業運営にかかる経費といったコストの情報、施設の築年数や利用状況、運営状況などの情報を収集し、これを用いて施設とサービスの実態を総合的に把握しました。

また、掲載しているデータについて、施設一覧は令和 2 年 4 月 1 日時点を基本とし、利用状況・コスト状況等については、令和元年度または平成 30 年度決算データを用いて比較分析を行っています。

2．調査対象施設

（1）対象施設の分類

以下の対象施設について、施設ごとに概要、利用状況、運営状況、コストの状況等を把握し、分類ごとに特徴、課題を把握しました。

※･･･施設一覧に運営状況を併せて記載　△･･･復旧工事等の影響から今回は二軸評価を行わない分類

分　類	把握,分析事項				調査対象施設
	利用状況	運営状況	コスト状況	二軸評価	
①市営住宅	○		○		団地
②学校	○		○		小学校、中学校、高等学校、共同調理場、専修学校、教育ｾﾝﾀｰ
③市民文化系施設１：集会施設･公民館	○	○	○	○	公設公民館
④市民文化系施設２：集会施設･地域ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ等	○	※	○	○	地域ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ、老人憩の家　等
⑤市民文化系施設３：集会施設･その他集会施設	○	※	○		共同利用施設、まちづくりセンター内ホール、多目的集会施設　等
⑥市民文化系施設４：文化施設（会館･ホール）	○	※	○	△	会館、ホール、文化センター　等
⑦社会教育系施設：図書館	○	○	○	○	図書館、図書室
⑧社会教育系施設：博物館等	○	○	○	△	美術館、博物館、記念館、資料館　等
⑨スポーツレクリエーション：スポーツ施設	○	○	○	△	体育館、運動施設、武道館、弓道場、スポーツセンター、グラウンド、プール、運動場、競技場、野球場、テニスコート　等
⑩スポーツレクリエーション：レクリエーション･観光施設	○	○	○		少年自然の家、観光交流施設、動植物園、熊本城　等
⑪産業系施設	○	○	○		プラザ、勤労者福祉センター、職業訓練所、物産館、競輪場　等
⑫子育て支援施設：幼稚園･保育園	○	○	○		幼稚園、保育園
⑬子育て支援施設：児童館	○	※	○	○	児童館
⑭子育て支援施設：児童育成クラブ	○		○		児童育成クラブ
⑮子育て支援施設：その他児童施設	○	※	○		子ども文化会館
⑯保健･福祉施設：高齢者福祉施設	○	○	○	○	老人福祉ｾﾝﾀｰ、高齢者生きがい作業所、介護予防支援施設　等
⑰保健･福祉施設：障害者福祉施設	○		○		障害者福祉センター希望荘
⑱保健･福祉施設：児童福祉施設	○		○		こどもセンター
⑲保健･福祉施設：保健施設		○			健康福祉センター、保健福祉センター　等
⑳保健･福祉施設：その他社会福祉施設	○	○	○		在宅福祉センター、健康センター、等
㉑行政系施設：庁舎等		○	○	○	市庁舎、別館、区役所、出張所、分室　等
㉒行政系施設：その他行政系施設	○		○		河川防災センター、ふれあい文化センター、検査所、事務所　等
㉓行政系施設：消防施設	○	※	○		市消防局庁舎、出張所、消防ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ、機械倉庫　等
㉔供給処理施設	○		○		環境工場、クリーンセンター　等
㉕その他の施設	○	※	○		地下駐車場、地下通路、火葬場、自転車駐車場　等

（2）複合施設について

本市の公共施設には、以下のような複合施設があります。本章では、複合施設の各機能を分析するため、施設分類ごとに現況データを整理しました。

図表：主な複合施設一覧

施設名	複合施設						
	行政庁舎	公民館	図書館	児童館	その他ホール等	体育館	産業系施設
西区役所	●	●	○	●			
大江交流室	●	●		○			
託麻まちづくりセンター	●	●	○	●			
秋津まちづくりセンター	●	●	○	●			
東部まちづくりセンター	●	●	○	●			
花園まちづくりセンター	●	●	○	●			
河内まちづくりセンター芳野分室	●				●		
飽田まちづくりセンター	●	●	○				
天明まちづくりセンター	●	●	○	○	●		
幸田まちづくりセンター	●	●	○	●			
南部まちづくりセンター	●	●	○	●			
北部まちづくりセンター	●	●	○				
清水まちづくりセンター	●	●	○	●			
龍田まちづくりセンター	●	●	○	●			
中央公民館　※		●	○				
五福まちづくり交流センター		●	○	○			
河内公民館		●	○				
アスパル富合		●	●		●		
火の君文化センター	△	●			●		
城南図書館			●	●			
植木文化センター		●	●		●		
はあもにい			○		●		
くまもと森都心プラザ			●		●		●
総合体育館					●	●	

※中央公民館は令和元年度に供用開始したため、利用状況等の把握・分析は行っていません。

●庁舎　●図書館　●児童館
△健康センター分室　○図書室　○児童室

3. 実態把握の共通記載事項

（1）施設概要

施設分類ごとに、住所、延床面積、築年数など、施設の基本的な情報について、一覧表で整理しています。施設分野の特性に応じ、把握すべき事項を追加しています。なお、同じ施設内に複数の棟が設置されている併設施設については、そのなかで床面積が最大の棟の建築年度を表示します。

（2）実態把握　※平成 30 年度または令和元年度決算データを基に作成しています。

1）利用状況･稼働状況

利用状況は、各施設がどの程度利用されたかの情報を示すものです。利用者数、利用件数、利用可能なコマ数に対して何コマ利用されたかの稼働状況等、施設分野の特性に適した図表で示しています。

2）運営状況

運営状況は、施設の運営人員、運営日、運営時間等を記載しています。施設分野の特性に応じ、必要な項目を整理しています。

3）コスト状況

コスト状況は、施設ごと、あるいは施設分野ごとに大きくは事業運営にかかるコスト、施設にかかるコスト､指定管理委託料（指定管理施設の場合)､減価償却費相当額に分けて整理をしています。事業運営にかかるコストには、人件費（一般職員、嘱託職員を含む)、事業運営費が含まれます。

施設にかかるコストには、工事請負費、燃料光熱水費、委託料、使用料及び賃借料などが含まれます。

収入には、手数料収入、使用料収入、諸収入などが含まれます。

4）評価･分析

上記の情報に基づき、整理した複数のデータを活用し、現況について評価・分析を行っています。たとえば、各施設のトータルコストと各施設の利用者数のデータから、施設別の利用者 1 人あたりのコストを、各施設のトータルコストと延床面積のデータから、延床面積 1 ㎡あたりのコストを求めるなどしてこれらを比較しています。

さらに、コスト、面積、利用者数、築年数等多くのデータを組合せて二軸の指標で散布図にプロットし、特徴や課題の把握に用いています。

※震災の影響で平成 30 年度に一時休館または災害復旧工事を行った施設が多数含まれる施設分野（P. 37 参照）については、ニーズやコストを相対的に比較できないことから、今回二軸評価は行っていません。

※利用状況等の管理システム移行に伴い、一部データについては平成 30 年度決算データを使用しています。

（3）総合管理計画における施設分野別方針

総合管理計画（平成 29 年 3 月策定）に掲載している施設分野別方針を参考に記載しています。